

	一般的名称	報告の概要
282	エストラジオール	ホルモン補充療法と非ステロイド性消炎鎮痛剤の併用により、ホルモン補充療法単独の場合と比較して、心筋梗塞の発症が高まることが示唆された。
283	ケトプロフェン	ホルモン補充療法と非ステロイド性消炎鎮痛剤の併用により、ホルモン補充療法単独の場合と比較して、心筋梗塞の発症が高まることが示唆された。
284	パミドロン酸二ナトリウム	パミドロン酸あるいはゾレドロン酸を静脈内投与したがん患者14349例と非使用者28698例をSEERプログラムのデータを用いて解析したところ、静注用ビスホスホネート使用群で顎又は顔面骨の手術リスクや顎の炎症状態または骨髄炎と診断されるリスクが有意に増加し、累積投与量の増加に伴い、リスクが増加した。
285	イホスファミド	ユーイング肉腫患者578例を対象とした無作為化あるいは非無作為化比較試験において、イホスファミドとシクロホスファミドとドキソルビシンの高用量併用により骨髄異形成症候群あるいは急性骨髄性白血病のリスクが増加することが示唆された。
286	ニフェジピン	カルシウム拮抗剤の使用は、胃食道逆流症および併発する非心臓性胸痛の原因である可能性が示唆された。
287	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。
288	リファンピシン	健康男性10例を対象とした非盲検無作為化二方向性クロスオーバー試験において、リファンピシンとリスペリドンの併用により、リスペリドンのAUCや最高血漿中濃度が有意に減少した。
289	塩酸イリノテカン	日本人がん患者177例に対するイリノテカン単独療法、あるいは併用化学療法において、UGT1A*6あるいは*28の変異型を有する患者では重度の好中球減少のリスクが高いことが示唆された。
290	ジクロフェナクナトリウム	結腸切除後の疼痛治療に対しジクロフェナクを使用すると、吻合部裂開の発現率が高まることが示唆された。
291	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用は、乳癌の発症リスクを増加させることが示唆された。
292	塩酸イリノテカン	日本人がん患者177例に対するイリノテカン単独療法、あるいは併用化学療法において、UGT1A*6あるいは*28の変異型を有する患者では重度の好中球減少のリスクが高いことが示唆された。
293	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用は、胃食道逆流症の病歴をもつ若年成人の胃食道逆流症状のリスク要因になる可能性がある。
294	エストラジオール	高齢女性へのホルモン補充療法は、心臓発作と脳卒中のリスクを高めることが示唆された。
295	ワルファリンカリウム	経口抗血栓剤を服用している心臓血管疾患および脳血管疾患患者3980例を対象とした多施設観察研究において、ワルファリン+抗血小板剤併用群ではワルファリン群と比較して、生命を脅かす出血の発現率(/1000人年)が抗血小板剤単独では5.8、抗血小板剤多剤併用では9.9、ワルファリンでは10.3、ワルファリン+抗血小板剤併用では19.1であった。
296	メトレキサート	未治療のマントル細胞リンパ腫患者79例を対象としたリツキシマブ/メトレキサート/強化CHOP/EARによる地固め療法において2例が死亡した。
297	レボホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者53例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン/パバシズマブ併用のPhase II試験において、不整脈と詳細不明で2例が死亡した。
298	ナプロキセン	ナプロキセンナトリウムの服用は、心血管系および脳血管系イベントの発症を高めることが示唆された。